協働と未来 -第86回IFLAオンライン大会-

メタデータ	言語: 出版者: 日本図書館協会 公開日: 2024-01-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦,太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/0002000198

小特集★IFLA2021オンライン大会レポート

協働と未来

――第86回IFLAオンライン大会――

三浦太郎

コロナ禍と改選

2019年11月に中国武漢で新型コロナウイルスの発生が初めて確認され，2020年以降，世界規模で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行している。2021年に入ってからも，多様な変異株が確認されるなど，脅威は続いており，2021年８月29日時点で，全世界で報告された累積感染者数は２億1,600万人，累積死亡者数は450万人を超えた[1)]。

国際図書館連盟（IFLA）では，2020年４月，夏にアイルランド・ダブリンで予定されていた第85回IFLA大会の中止を決定し（11月５日に総会のみオランダで開催），５月から，各国・地域で取り組まれるコロナ禍対応の事例収集を始めた。各図書館協会・国立図書館が策定した指針や，図書館再開に向けた課題，遠隔サービスの事例等がウェブサイトにまとめられた[2)]。各分科会の会議はウェビナーに移行し，９月，翌年にオランダ・ロッテルダムで予定されたIFLA大会のオンライン開催を発表した。

そうした中，数年来の課題となっていた組織改編も進められ，2021年春に新たな枠組みの下で選挙が実施された。組織改編の直接の契機は，2017-18年に世界中の図書館員に意見を求めたグローバル・ビジョン・プロジェクトであった。プロジェクトの提言を反映して，2019年に「戦略2019-2024（IFLA STRATEGY 2019-2024）」が発表されると，「図書館の声を世界に広げる」ことや，図書館界の強化，組織の最適化が盛り込まれた[3)]。

IFLAで執行権限をもつのは理事会（GB）である。会長，次期会長，会計のほか，従来は選挙で選ばれる理事（２年任期）が10名であったが，改編後は５名となった。今回，日図協の推薦を受けた井上靖代氏（獨協大学）が理事に選出された。

出典：IFLA Global Vision Ideas Store[4)]

また，地域の協議体は従来，GBに置かれた部会のひとつとして位置づけられていたが（第Ⅴ部会），組織改編により，GBの直下に，専門協議会（PC）・助言委員会（AC）と並んで，地域協議会（RC）が置かれることとなった。RCは，六つの地域活動部会の長から構成され，各地域活動部会の委員は選挙で選ばれる。このうち，アジア・オセアニア地域活動部会委員に，日図協の推薦する岩崎れい氏（京都ノートルダム女子大学）と野村美佐子氏（特定非営利活動法人支援技術開発機構（ATDO））が選出された。

分科会常任委員の改選も行われ，学校図書館分

科会（SL）で庭井史絵氏（青山学院大学），系図・地方史分科会（GLHS）で長谷川幸代氏（跡見学園女子大学）が，それぞれ新たに委員となった。このほか，図書館理論・研究分科会（LTR）の下田尊久氏（前・藤女子大学），先住民問題分科会（IMS）の兎内勇津流氏（北海道大学）が再任されるなど，日本から９名が選出された。分科会によっては候補者が多数に上ったため，得票同数者による決選投票が行われたケースもあり，その結果，残念ながら，今回は別の国の候補が常任委員に選ばれるということもあった。分科会常任委員の任期は４年で，今回非改選（2019.8-2023.8）の委員７名と合わせて，16名が活動している。

初のオンライン開催

2021年８月17-19日の３日間，第86回IFLA大会が初めてオンラインで開催された[5]。テーマは「未来に向けて，ともに働こう（Let's Work Together for the Future）」である。これは，本大会で任期満了となるクリスティン・マッケンジー会長（2019.8-2021.8）による会長テーマ「ともに働こう」と，後任のバーバラ・リゾン会長（2021.8-2023.8）のテーマ「持続可能な未来をつくる図書館」に基づいている。

大会には125か国から2,750人以上が参加した。開催時間は地域間の差への配慮も認められ，日本時間での開始時刻は，初日が夕方16時から，２日目は夜22時から，３日目は午前10時からと設定された。

出典：WLIC Newsletter, Issue 10, 19 August 2021[6]

ライブ・ストリーム画面が３系統，Zoomのディスカッションルーム（ZDR）が３系統，用意された。ライブ・ストリーム画面では，各分科会などの企画による研究発表セッションを中心に，開閉会式，基調講演，スポンサー・シンポジウム，地域フォーカス・セッションなどが設けられた。総セッション数は150以上となった。

研究発表セッションは，事前録画された発表内容など，３-５件程度の発表から構成され，30-45分ほど動画配信された後，ZDRで30分間，参加者との間で質疑応答が行われた。セッションの枠組みとして，図書館の①革新，②包摂，③持続，④啓発，⑤可能にすること，という五つのサブテーマが設定された。

このほか，OCLCなどの企業展示が18件，ｅポスターの展示が59件に上り，参加者と双方向のやりとりを可能としていた。それぞれの日の最後には，参加者が気楽に参加できるような（「カラオケ」など），ソーシャル・アクティビティの時間帯も設けられた。

日本からは，研究発表４件，パネリストとしての登壇１件，ｅポスター２件があった。発表セッションと発表者は以下のとおりである。

・初日（19:45-20:30） 児童青少年分科会（CYA）主催「図書館員は理解する：セーファーインターネット，パンデミックの教訓，世界中で読書すること」のセッションにおける，汐﨑順子氏（慶應義塾大学非常勤講師），および，永野祐子氏（国立国会図書館）の発表

・初日（21:45-22:30） 学校図書館分科会（SL）主催「新たな考え方や技能へのポータルとしてのパンデミック」のセッションにおける，庭井史絵氏・岩崎れい氏の共同発表

・初日（21:45-22:30）「図書館情報専門職の継続発達，職場での学習」分科会（CPDWL）主催「ナウーニューーネクスト：オンライン学習を通じて専門能力開発を再考し再定義する」のセッションにおける，松本直樹氏（慶應義塾大学）のパネリストとしての登壇

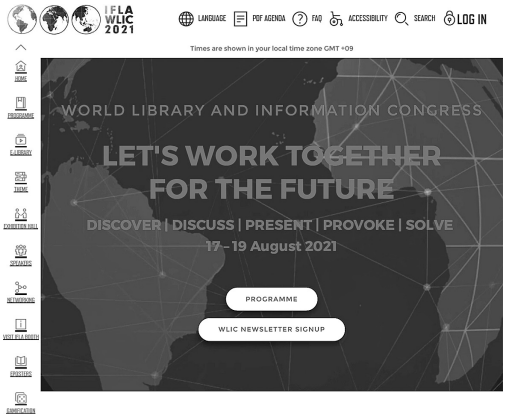
・３日目（11:00-12:30） デジタルヒューマニティーズ・デジタルスカラーシップ特定活動グルー

プ（DH/DS SIG）主催「パンデミックからの復活と将来の好機への転換点：グローバルなデジタルスカラーシップから学ぶこと」のセッションにおける，森嶋厚行氏（筑波大学）の発表

・ｅポスターにおける，山下ユミ氏（京都府立図書館）・三輪眞木子氏（放送大学）の共同発表，および，ヤスミン・ユーセフ氏（ネイチャーインクルーシブ合同会社）・野村美佐子氏・河村愛氏（ネイチャーインクルーシブ合同会社）・河村宏氏（ATDO）の共同発表

これらの研究発表は，大会開催後１年間，公開されている。10月末まで，コンテンツ閲覧のためのＥチケットの販売が受け付けられ，大会参加者やＥチケット購入者はアクセスできる。

閉会式に際してマッケンジー会長は，「この大会は最初のバーチャル大会であったがために，後世振り返られるのではない。新たなパートナーシップ，新たな協働，そして図書館界が新しくともにあること（togetherness）の始まった大会として語り継がれる」と述べた。



出典：IFLA WLIC 2021[7]

地理的な隔たりを超えて，図書館員や研究者，関係者同士が，同じ時間，ともに問題を考え，その解決に向けてお互いの認識を通わせたことは，この領域に花開くひとつひとつの種となったことを祈りたい。

会員総会

例年，会期中に開催される会員総会は８月25日にオランダ・ハーグで行われた。

会計のアントニア・アラホバ氏の決算報告によれば，2020年度は118.9万ユーロの収入（前年比30％減）に対し，89.6万ユーロの支出（前年比56％減）と，29.3万ユーロの黒字となった。ただし，COVID-19による会合費や交通費の支出減などが見られた一方，大会中止により運営手数料がなくなり（前年には約24.3万ユーロを計上），会費収入も4.7万ユーロ減（72.8万ユーロ）となった。もし，オランダ政府から人件費に対する補助として47.6万ユーロが支払われなかったとしたら，赤字化は不可避だったと報告されている[8]。

最後に，次回大会は2022年７月26-29日にアイルランド・ダブリンで開催予定と発表されている。例年よりも半月ほど早いスケジュールであり，コロナ禍の見通しも不透明であるが，リアル開催を待望する声は各所で聞かれた。今後，状況が好転し，IFLA 委員の方々をはじめ，現場の図書館員，大学の研究者，大学院生など，図書館関係の皆さまの参加が可能となることを期待したい。

注

以下の参照先の最終アクセス日は，いずれも2021年11月19日である。

1）厚生労働省検疫所「新型コロナウイルス感染症の世界の状況報告」（2021年８月31日）［https://www.forth.go.jp/topics/20210815.html］

2）IFLA “COVID-19 and the Global Library Field”［https://www.ifla.org/covid-19-and-libraries］

3）渡邉由利子「E2206- 国際図書館連盟（IFLA）の新たな戦略」『カレントアウェアネス-E』No.381，2019.12.05［https://current.ndl.go.jp/e2206］

4）“IFLA Global Vision Ideas Store”［https://ideas.ifla.org/］

5）“IFLA WLIC 2021”［https://www.ifla-wlic2021.com/］ 大会を振り返る試みとして，図書館総合展（2021年11月にオンライン開催）でフォーラム「国際図書館連盟（IFLA）の活動を通じて，コロナ禍における世界の図書館の動向を知る」［https://www.libraryfair.jp/forum/2021/107］が行われた。

6）“WLIC Newsletter,Issue 10, 19 August 2021”［https://mailchi.mp/ifla/wlic-2021-newsletter-5324337?e=[UNIQID]］

7）前掲５）

8）Arahova, Antonia “IFLA Annual Report 2020 : Treasurer's Statement”［https://cdn.ifla.org/wp-content/uploads/files/assets/hq/general-assembly/treasurers-statement-2020.pdf］

（みうら　たろう：JLA 国際交流事業委員会委員長，明治大学）

［NDC10：010.6　BSH：国際図書館連盟］